

図書室だより

平成26年5月7日

立花中学校

図書室

「いつ読むの?」「今でしょ!」(古っ!)

学生時代の話をする

三流は「体育が得意でした」という

二流は「数学が得意でした」と言う

一流は「国語が得意でした」と言う

(安田 正: 著「仕事の哲学」より)

著者の知りあいの会社役員(エライ人です)に訪ねたときの答えだそうです。また理系の役員も「国語は得意な方でした」と答えておられるそうです。(注: この一流、二流は著者が独自に判断されたものです)



by ふ〜みん

また「会社トップはよく本を読んでいる」とも言われています。

なぜでしょうか? それは会社の役員(トップ)は部下に判りやすい指示を出さないといけませんし、そのためにはしっかりした思考、素早い判断が求められます。その材料は「相手の話」や「報告書」なのです。つまり「聞く」「読む」そして「話す」という言語力が役員の基盤になっているのです。

もちろん他の教科も大切ですが、その勉強を支えるのも国語力なのです。

国の定めた中学校の学習の方針に「言語力向上」というコトバを、国語はもちろん他の全教科で見かけます。それだけ大事であるが、逆に言えば「学校でやらないとけない状況である」ということです。あなたの身の回りにいつも文字(本や新聞)があり、小さい頃からコトバのシャワーを浴びていればわざわざする必要のないことですが、今の世の中はそうはいかない、ということでしょう。

言語の習得は脳の発達がすごい小学校に入るまでにほぼ終ると言われます。ではもう手遅れでしょうか。そんなことはありません。まさに今脳がすごく育つ二度目の時期なのです。(体もですがネ) ですから教科書を含めて文字を読み、コトバを話すことにすすんで取り組みましょう。

「読書苦手～」な人に!

とりあえず100冊を目標に読みまくりましょう。ライトノベル、ゲームやアニメの小説版で結構です。趣味の解説書も効果的かな? 内容を完全に理解できなくてもかまいません。そんなもん後からついてきます。70冊を超えるあたりから読みやすくなるはずですよ。100冊をこせば、他のジャンルの本もなんとか読みとおせるようになります。

1週間で1冊としたら2年で達成しますので中学の間にぜひチャレンジしてみてください。